



3年海洋技術コースキャリアトリアル 「ことばの力」トリアル

10月3日(水)、3年海洋技術コースの生徒が大江山において、宮津ふるさとの森を育てる協議会の皆様の御指導の下、土木実習に取り組みました。



【午前】石原 奈名

【実習内容】2メートルの間隔で杭打ち作業

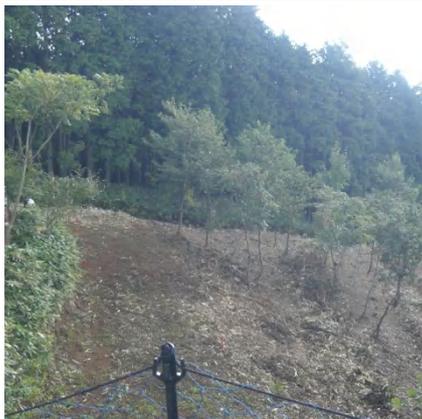
普段は触れ合う機会が少ない森での実習でしたが、海のことばかりでなく森のこともしっかりと考えていくことで最終的に海を守ることができることを実感できました。また、学校での事前学習で杭打ちの練習を行いました。現場に入る前に作業のコツをしっかりと掴んでいたため、現場において早く仕事をすることができました。事前準備の大切さも実感できた実習でした。



【午前】尾田 寿輝也

【実習内容】大江山での杭打ち作業

大江山に植林を行うための下準備として山の斜面にくい打ち作業を行いました。その中で講師の先生方の話から、葉や木の栄養が地中を通して海に流れるということを知り、海と山は親密な関係にあることを実感できました。海を守るためには、その源である山の環境を守る大切さを強く感じました。海や山など、自然のために自分でできることを探していこうと思います。



【午前】村上 夢定

【実習内容】大江山での植林前の杭打ち作業

最初は何の目的で行くのか説明できず、また3年にもなって声が小さい、挨拶ができないなど、初歩的な注意を受けていたので、まるで成長が見られない自分達に憤りを感じつつ取り組みを始めるといった始末だった。作業はバディと協力しながら杭打ちの作業を進め、全体で役割を決めて協力し合えた。また、技術面でも事前に練習した杭打ちが役に立ち円滑に作業を進めることができた。卒業まで、私たちの課題を克服できるように努めたい。

実力をつける！ 安全確保！

やりきる！ 理解する！



【午前】上野 祐希

【実習内容】植林の目印となる杭を2m間隔で打つ作業をしました

最初は、森林組合の皆さんに海と森林の繋がりを教えて頂き、私たち海洋高校生が、植林作業する意味を再認識する事が出来ました。

杭打ち作業ではただ杭を打つだけではなく、成長後の日光の当たり具合など考慮して場所を選定するなど、将来を想像して行う作業の奥深さと難さを感じました。



【午前】後藤 大智

【実習内容】大江山での植林するための杭打ち

今回の実習では、大江山に植林するために用いる目印として杭打ちをしました。ただ杭を打つだけではなく、成長後のことを考えて場所を選定したのですが、石や根っこが沢山あり杭が打てない所がたくさんあって作業は難航しました。作業をしながら、今は赤土がむき出しのこの場所に、木が生い茂って豊かな腐植土を育み、その栄養素が由良川や若狭湾を豊かにする光景を想像すると、胸が高鳴りました。



【午前】四宮 康

【実習内容】大江山での植林するための杭打ち

植林をするための目印の杭打ちをして、簡単そうに見える杭打ちでも木が成長してからの日光の当たり具合、密集しないかなど考えて杭打ちをしました。また、作業を進める中で要領をつかみ、慣れると自分で場所を選定できるようになりました。反省点は山に着いたときにスタッフの方々に挨拶が出来なかったことです。日頃の実習で学んでいることを活用できませんでした。



【午前】宮本 沙紀

【まとめ】

先生方から気の緩みについての指導を受け始まった実習でしたが、自分自身の成長や課題が発見できた1日でした。今回の作業は、10月27日の植樹祭に向けての下準備として参加をさせていただきました。植林をすることで腐葉土ができ、栄養分が流れ、海藻が成育をするなど、改めて森と海の繋がりを再認識しました。私達は海藻を用いて研究活動を行っています。今まで海のことばかり研究をしてきましたが、今回の経験を活かし、森についての活動も行っていけたらと思います。



【午後】川原 輝

【実習内容】森を豊かにするため、コナラやミズナラ、クリ等を採取し、苗を作り、森林の一部に植えました

午後の作業はドングリやクリを採取しました。クリの殻は固く、クリのイガに刺さりながらの作業だったので、実を取り出すのに苦戦しました。作業終了後、谷を挟んで向かいの山を見てみると、一部木が殆どない場所がありました。その時に今自分が行っている活動の重要さが分かるとともに、「最後まで継続する」というスタッフの方の言葉の意味が分かりました。継続する大切さを、今後の生活でも活かしていきたいです。



【午後】山口 健太

【実習内容】どんぐりの性質と特徴についての研究

午後からは、ドングリの性質や特徴についての実習を行いました。その活動の中で次年度の苗を作る作業があり、ドングリの実を植える際にドングリは芽と根が同じところから生えるので実を横にしたまま植えるということを知りました。また、様々な木やドングリの名前や特徴を教えてください、多くの植物の名前と、それらが私たちの生活に無くてはならない存在であることを改めて知る事が出来ました。



【午後】久保 智貴

【実習内容】森をつくり育てるためにクリ、コナラ、ミズナラなどの木の実を集めてプランターに苗として植える

午後の作業では、クリ、コナラ、ミズナラといった木の実の収集作業をした。最初はどの木を探せばよいのか分からずにいましたが、スタッフの人に質問して木の種類やクリの剥き方といった知識を得ることができた。集めた木の実はプランターに植え、次年度の植樹に使用する苗にした。多くの木が育んだ実や腐植土を用いて苗を作る作業を通じて、この自然豊かな森を最後まで責任を持って育てていきたいという思いに駆られた。



【午後】平山 絢衣

【実習内容】自然にふれる

今日は初めて森を散策したのですが、見たことの無いものばかりで、わくわくしました。木に熊の爪痕がたくさん付いていたり、小動物がクリを中身だけ綺麗に食べた後の殻もあり、山の自然の躍動感を感じました。また、枝に葉を交互につけているのは、光合成をしやすくするためだと知り、動物や植物の生きる知恵や進化の奥深さに触れ感動しました。とても貴重な経験となりました。



【午後】長谷川 浩平
【実習内容】自然を学ぶ

山は身近にあるものだが、今まであまり興味がありませんでした。しかし、山に行くと私の知らない木が多くあり、「これは、何だろう」と少しずつ山や森に興味を持つようになりました。植樹を通して山を知る事で、海と山の繋がりを知り、大きな視野で海への知識も深めていきたいと思えます。また、この機会を通じて「自分達に何が出来るのか」「海を学んでいる私達にしかできないことはないか」を考えていきたいです。



【午後】高井 啓亮
【実習内容】ドングリ・栗の学習と採取

午後はドングリの採取をしました。採取する中で、今まで見たことがないドングリや木を見つけることができ、森の豊かさを実感しました。また、森の中を歩いていると、ドングリがたくさん落ちており、そのドングリを虫が食べ分解されている様子を見て、木や木の実が土の栄養となっていることを実感することができました。今回の学習で森について多くのことを学んだので、これからの研究活動に繋げていきたいです。



【午後】壺内 章矢
【実習内容】山に入り自然を探求する

実習に参加するまで、事前学習などを通じて山の腐葉土が窒素やリンなどを作り出し、海に栄養を与えているということを学んでも上手くイメージすることが出来ませんでした。しかし、今回、山に入り実際に自分の目で見て五感で感じることで、より深く山や腐葉土について理解することが出来ました。海に大きく関わっている森や山について、さらに深く知りたいと思うようになりました。



【午後】坪井 千明
【まとめ】

午後からは山の散策をしました。散策をする前は、あまり山に興味が無かった人もいましたが、今回の活動に参加することにより山の楽しさと奥深さを知りました。木の名前の由来など、スタッフの方々から聞く話は面白く、積極的に質問することにより新たな知識をどんどん吸収できました。分からなかった事を知り、質問するのが楽しくなりました。今回行った活動で森と海の繋がりを学ぶとともに、質問するなど積極的に学ぶ大切さを実感しました。この経験をアマモの研究に繋げていきたいです。そして私達にしか出来ないことを見つけたいです。